奈良・和田廃寺

1 所在地　奈良県橿原市和田町

2 調査期間　一九八六年（昭61）一〇月～一一月

3 発掘機関　奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

4 調査担当者　岡田英男

5 遺跡の種類　寺院・都城跡

6 遺跡の年代　弥生時代～一三世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は和田廃寺第三次調査として行ったもので、場所は「山田道」の後身かと推定される県道橿原神宮東口停車場線の北側に接する水田で、第二次調査で検出した塔跡（大野塚）の東南約一二〇mに当たる。調査地は南北二地区に分かれ、面積は二四五㎡である。

北区は全体が東南から西北への流路内で、弥生時代から中世までの遺物が混じりあっている。古墳時代の土器や中世の土器類は多量に出土したが、藤原宮期、奈良時代のものは少ない。他に、るつぼ・鞴羽口・鉱滓など鋳造関係の遺物、滑石製有孔円盤一点、延喜通宝一点、木簡二点が出土した。

（吉野山）

南区では東西九mにおよぶ計一一個の中世の立石列を検出した。現県道が「山田道」を踏襲しているならば、中世の「山田道」の北路肩の可能性があるが、また西にある薬師堂の前身遺構とも考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1)　□
□大八嶋□□
□□□□□　(101)×(16)×5　081

(2)　□□□□〔冊〕〔八カ〕束　(159)×19×3　081

木簡は古代のものとみられるが、中世遺物と共に出土したので、はっきりした時期はわからない。「大八嶋」は日本を指す言葉として宣命等に用いられるが、宣命では「大八洲」と記す例が多い。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(八)』（一九八七年）
同『飛鳥・藤原宮発掘調査概報一七』（一九八七年）

（加藤　優）